

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 楠橋 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

##### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

##### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

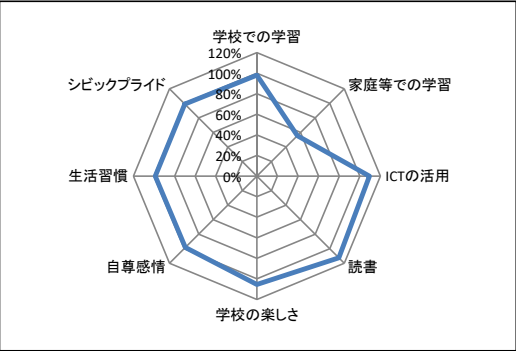
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	話すこと、聞くことを問う問題、言葉の特徴や使い方に関する問題などで全国平均を下回っている。特に、読み取る項目については顕著にその傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	我が国の言語文化に関する項目	
	努力が必要な問題	考えを言葉で表現する項目	
算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域に関係なく、思考・判断・表現を問う問題で、正答率が低く、無回答率も高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	めもりを正確に読み取るなどの項目	
	努力が必要な問題	データを分析して解答する項目	
理科	全体的な傾向や特徴など	幅広い学習指導要領の区分・領域において、正答率が低い傾向にあり、特に自分の考えを記述するなどの表現を問う問題でその傾向が顕著に出ている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日々の生活に関連する項目	
	努力が必要な問題	起こる事象と知識を関連付け、根拠を基に予想する項目	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して90%以上の児童生徒が肯定的に回答している。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。</li> <li>・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・「学習のまとめを児童自身が考えて書く」「短文で表現する」など、児童が考えを記述する機会を設けることで、書く力の定着をめざしており、今後も継続的に取り組んでいく。
- ・算数科では個別学習・補充学習を充実させることで、誰一人取り残さない学びを学校全体でめざしていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「学年×10分」の学習時間を目安として、家庭学習の定着をめざしている。また、自主学習ノートを活用したり、ドリル学習を取り入れた宿題を継続的に行うなど、児童自身が「できた」と感じられるような取り組みとなるよう、学力保障委員会を中心に検討し、実践している。